

# 秋季大祭祭文

夫れ惟おもんみれば東方山の頂じょうおんき静ふよう隠れいほうにして芙蓉の靈峰へきくうは碧空を仰しょうりついで聳立し秋の彩丹さいたんを投さんろくじる。山麓さんろく一帶に建立せり四国八十八カ所をゆかりとする靈場は紅葉一色に染まり爽朗そうろうなる坊舎ぼうしゃの叢いらかと相見えて、密嚴淨土みつごんじょうどの粧よそおいを凝こらす。げにや安養あんようの寺号は、密嚴淨土安養淨土を今の世に顕現こせしものと謂いっつ可べし。

斬ここに恭うやうやしく安養寺本尊藥師如来 觀音堂本尊觀世音菩薩の降臨こうりん影向ようごうを仰あおぎ、謹つつしんで真言教主大日如来 兩部界会 諸尊しようじゆ 別べつしては十六善神ぜんじんを奉たてまつり、安養寺秋季大祭を執とり行とう。

当山さかのぼは遡さかのぼれば奈良時代天平十二年・聖武天皇の発願しやうむにより、同天皇が深く帰依きえせし高僧こうそう良弁僧正ろうべんの開創かいそうになる淨刹じようさつなり。更に以後、平安時代には真言宗宗祖弘法大師が承和元年に堂宇じやうわを再建ちゆうこうし、大師を中興ちゆうこうの祖そと仰はつようぎ大師信仰発揚はつようの尊せいき真言密教の靈れい跡せきとなる。

ここに弘法大師のみ教おしえの根源こんげんを記しるすと、大師は何人なんびとといえども排除はいじよすることなく各人の個性かくじんの特徴とくちやうを評価ひやうかされ、それなりに生きる秘密まなこの眼まなこをもつて、常に国家の安泰あんたいと国民一人一人の幸福さいせい・濟世

利人に心を碎かれる。

当山も大師の再建・中興以来、歴代住職が世の苦しみ、人の苦

しみを薬師如来に抜苦与楽を、あるいは、幸せを求めて福寿海

無量の観世音菩薩に念彼観音力、妙智力を授からんことを至心に

祈る。これ全て檀信徒への教化の活動、働きて仏恩報謝の赤誠の

心なり。

昭和・平成の時代を迎え、当山の信仰倍増へ尽力する熊谷俊亮

住職は、菩提心堅固にして、知恵にすぐれ慈と悲、優しさと強さを

備え得る至宝なり。密教僧を自得して真理をタテ系に、人の願

いとすることを理解し、個々の特性にあった指導をヨコ系に展開し、

益々密教の師としての資質を發揮され、めざましい寺門の興隆をみ

るに至る。まさに俊亮住職の実践躬行のたまものなり。本日当山の

本尊薬師如来宝前に於いて真言宗当山修験の紫燈大護摩供が

練達の修験道の験者らによって執行される。

それ修験の大乗は金胎不二の妙典にして、秘密大曼荼羅を

布設し、火生三昧。その旨趣を如何なればと問うと、国家安穩

流疫消滅にして五穀豊饒 特には信心の施主 篤志各位の家内安

全 子孫長久 諸願成就 皆令満足なりと。殊に当山において

は、先ぬる平成二十四年一月二十一日、慈愛溢れる直子寺族

夫人、法号寂光院覚苑慈祥大姉が無常の風に誘われ突然の旅立ち。

大姉は四十年間に亘って、俊亮住職を助教し令息道玄師の養育、

檀信徒の育成を扶助して八面六臂の連日なりき。その間、寸暇を

拾いてご詠歌の修練、ご詠歌伝道に奉仕を尽くす。その功績は

欣慕されて止まるところをみず。痛ましく悲しい哉。されど忽ちに

して涅槃の床を示して化儀の世界を現す。靈魂速みやかに阿字の

本土に帰還す、と。

仰ぎ願わくは本尊聖者を始め奉り、両部界会の諸尊聖衆 曩

租神変大菩薩 中興理源大師等 末資が無二の丹誠を照覽して

焚焼の法味を納受し、益々威光を増長して撰化衆生の勝益を施

し給え。

伏して乞う。

一天四海 風雨順時 五穀豊饒 萬民快樂

殊には本日ご参詣の面々

家内安全 息災延命 子孫長久

ふくじゅえんまん  
福寿圓滿  
ないしほうかい  
乃至法界  
びょうどうりやく  
平等利益

維時平成二十七年十一月八日

京都府向日市

亀光庵住職

土口哲光敬白